

カリフとは「代理人」の意味で、預言者ムハンマドの没後、その代理としてムスリム共同体（ウンマ）の指導者となった人のことを指す。単一のカリフをムスリム共同体全体の指導者とする考えは近代に至るまで根強いが、政治権力者としてのカリフの実態は初期と後代では異なっていた。7世紀前半と11世紀後半を比較し、その違いを3つあげて4行（120字）以内で説明せよ。

解答例1

第一にカリフが選挙制から世襲制になったこと。第二にカリフはイスラーム共同体で1人であったが、バグダードとカイロに2人のカリフが並立したこと。第三にカリフの世俗の統治者としての権限がスルタンの出現で失われ、権威としての存在になったこと。（117字）

解答例2

前者では、信徒が選出した正統カリフが、唯一のカリフとして政治権力を握っていた。後者では世襲制のアッバース朝カリフがセルジューク朝に政治権力を奪われ、宗教権威として存続していた。ファーティマ朝の君主もカリフを称してアッバース朝に対抗した。（118字）

加点ワード・採点基準

【7世紀前半】

- ①信徒が正統カリフを選出した/選挙で選んだ。（選ばれた）
- ②正統カリフは唯一のカリフだった。
- ③正統カリフは政治権力を握っていた。

【11世紀後半】

- ①アッバース朝は世襲制だった。
- ②ファーティマ朝もカリフを称し、アッバース朝に対抗した。
- ③セルジューク朝に政治権力を奪われた。
- ④アッバース朝のカリフは、宗教権威として存続した。